

農政の動き 2015年12月15日～12月18日

◇15年産米 11月の相対価格は1万3223円◇

農林水産省は、2015年産米の11月の相対取引価格（全銘柄平均）は、前月比0.8%（107円）高の60^キ。当たり1万3223円と発表した。前年同期比では8.7%（1061円）高いが、13年産比では、9.7%（1414円）安い。（15日）

◇世界農業遺産 新たに国内3地域が認定◇

国連食糧農業機関（FAO）は、岐阜県長良川上中流域、和歌山県みなべ・田辺地域、宮崎県高千穂郷・椎葉山地域を世界農業遺産（GIAHS）に認定した。GIAHSは、2002年からはじめたプロジェクトで、次世代に継承すべき持続的な農業システムを認定する。国内では11年に新潟県佐渡市と石川県能登地域が、13年には静岡県掛川周辺地域、熊本県阿蘇地域、大分県国東半島宇佐地域が認定された。（15日）

◇農地バンク実績 前年度3倍の8万^ヘ◇

2015年度の農地中間管理機構（農地集積バンク）の借入・転貸面積は、前年度実績に比べ約3倍の約8万^ヘとなる見通しとなった。農林水産省が政府の産業競争力会議で説明した。導入2年目で制度の浸透などが要因。ただ、目標の14万^ヘとは乖離（かいり）がある。政府は、取り組み強化へ都道府県別の実績のランク付け・公表や、現場の推進体制の拡充、遊休農地など農地の保有にかかる課税の強化・軽減などを措置する方針だ。（16日）

◇飼料用米コスト低減へマニュアル公表◇

農林水産省は、「飼料用米生産コスト低減マニュアル」を公表した。地域の先進事例をもとに、①多収の達成②栽培の合理化③規模拡大——をテーマに具体的な技術の内容やコスト低減効果などをまとめた。ホームページなどで生産現場に普及する。政府は、省力化や単収増などで飼料用米の生産コストを10年後に5割削減する目標を掲げている。（17日）

◇配合飼料価格 トン700円引き下げ◇

J A全農は、2016年1～3月期の配合飼料供給価格を15年10～12月期比で全国全畜種総平均で、トン当たり約700円引き下げると発表した。トウモロコシ相場の値下がりなどを反映した。（18日）